

## 令和2年度 英語 科 授業改善推進プラン

### ①現状・観点別分析

- [全学年] 毎月行っているALTとの授業や、その小ゴールとしてのパフォーマンステストは、生徒のモチベーションを大きく上げている。特にスピーチやパフォーマンステストなどの音声を中心とした評価に対しては、文字を通して読む・書くことにつまずきのある生徒でも、他の生徒と同じように意欲的に取り組んでいる。
- [1学年] ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいるが、少しずつ苦手意識をもち始めている生徒もいる。定期考査Iでは、最初の定期テストということもあって簡単ではあったが、観点別の達成率は表現が71.9%、理解が80%、知識理解が72.1%であった。さらに分析すると語彙力と英作文の力が少し弱いことが分かった。
- [2学年] 定期考査Iにおける観点別の達成率は、「理解」が71%、「知識」が60%、「表現」が50%であった。単元テストや小テスト等、の達成率は「理解」が80%、「知識」71%、「表現」が70%であった。
- [3学年] 定期考査Iでは、表現・理解・言語の知識の各観点の達成率の平均が、それぞれ60%、63.2%、60.6%と、ほぼ平均しており、特につまずきの大きい観点や、傑出した観点はない。また、試験全体の平均点も63.8点と達成率としては決して低くはない。しかし、単語や文法の知識や文章読解などはここに家庭学習を組み合わせることで基礎力を付けさせることができているが、表現、特に英作文は生徒個人によりその力の差が大きく、家庭学習ではその力を定着させることが難しい分野だと言える。

### ②課題

- [全学年] 4技能のうち、特に「書く」ことに課題がある。
- [1学年] 現状からも見えるように、英文を書く上での語彙力や作文力がやや弱い。スピーチテストは行っているが、普段のスピーキングの力を伸ばすことも含めた全体的な表現力を付けさせることが課題である。
- [2学年] まとまった文章を読み、内容を読み解くことは授業内で繰り返し行っているため、身に付いている生徒が多い。英作文では、「知識」として解答を選んだり、並び替えたりすることはできても、「表現」として人称や時制を意識しながら自分で一から作り上げていくことは難しいようで今後の課題と言える。
- [3学年] 表現の力の内でも特に、自分で英文を組み立てる力に課題がある。音声で話すことであれば、ブロークンであっても表情やジェスチャーで補うこともできるが、英作文ではそのような力を補完するような手法もないため、一切書くことができずに諦めがちな傾向のある生徒も多い。全てのレベルの生徒に英文を書くことの力付けさせることが課題である。

### ③具体的な改善策（「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善）

- [全学年] 帯活動を活用して、新しい文構造についてパターンプラクティスを行い、基礎力の定着の機会を多くもつことに努める。
- [1学年] 単語テストをこまめに行い、語彙力を付ける。ペアワークの機会も多くもち、スピーキングの力を付け、お互い学び合う関係を作る。本文を自ら暗唱し、アウトプットすることで表現力を高める。
- [2学年] ライティングノートの活動として、特定の文構造を使って英文を作ることに繰り返し取り組ませる。スピーチやスキット等の活動の中で自分が表現したいことを書く機会を作っていく。
- [3学年] 様々なトピックを用いて自己表現することで意欲を高めさせ、特定の文構造を使って英文を作ることに繰り返し取り組ませる。モデル文を示し、それをアレンジすることで、つまずきの大きい生徒でも達成感と英作文の力が伸びていることを実感できるように工夫する。

